

ゴミステーションをきれいに

私たちの生活に欠かすことのできない
ゴミステーション。誰もが気持ちよく使
うために、考えてみませんか。

手作り板の輪で囲む

家庭から出されるゴミを収集するまでの一時的な置き場として、区内に四万力所以上も設置されているゴミステーション。生ゴミが出されている日は、それを狙うカラスが集まってくることもしばしば。カラスに食い荒らされた後、周辺にはゴミが散乱し、街が汚れます。その様子を、頭を悩ます人たちが多いのではないのでしょうか。

シヨンを囲んでみると、ゴミが散乱せず、見違えるほどの効果があったそうです。そこで、鎌野さんのご主人で同町内会会長の正一さんが、町内の各班で使ってもらおうと、サークルを十個作成しました。「ベニヤ板を八枚つなぎ合わせた見本と同じ大きさのものと、板を小ぶりにして軽量化したものと、の二種類を作って、班の状況に合わせて分配しました。使用後は毎回畳んでネットの下などに置いておくので、板と板を結ぶひもの長さに余裕を持たせることがコツです」と正一さん。ゴミステーションを管理してくださる方たちからも使いやすいと好評です。

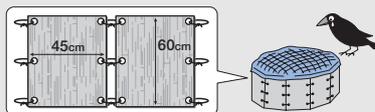


▲積雪の多いこの日は、スコップを手にゴミステーションを見回りました

朝一番にゴミ袋を出す人が自発的にサークルを設置し、次々と来る一人ひとりが、輪の中にゴミ袋を置いて、きちんとネットをかぶせるので、見た目もすっきりとし、いつのまにかカラスの姿も見かけなくなつたとのこと。地域の人たちが協力して続けているこの取り組み。皆さんのゴミステーションでも試してみませんか。

ゴミステーションの設置や移設については、町内会などを中心、地域の皆さんが話し合つて決めています。その結果を受けて、北清掃事務所では、道路交通法や収集作業上の問題がないことを確認し、ゴミ収集を開始します。ゴミステーションを効率的に利用するため、隣り合う町内会同士で相互に最寄りのステーションを使う話し合いをし、利便を図っている所もあるそうです。みんなで使う場所なので、より快適に、気持ちよく利用する方法を、地域の皆さんで考えてみてはいかがでしょうか。

★カラスよけサークルの作り方★



- ①ベニヤ板の両側上中下にて穴を開ける
- ②板と板をひもで結ぶ。畳む時のために板と板との間隔を約1cm取るようにひもの長さを調整する。
- ③全部の板を結ぶとサークル(輪)になる

※ベニヤ板の寸法や枚数は、各ゴミステーションの事情に合わせて調整してください。

みんなできよう



▲この街に住んで半世紀になるという鎌野さんご夫妻。よしさん(右)は、ゴミ分別の研修や清掃工場見学など、街をきれいにする活動に取り組んでいます